



## 『愛して大切な一人のために！』

説教者：鄭南哲牧師

聖書：マルコの福音書2章1～12節/暗唱聖句：へブル人への手紙11章9節 (Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズの信仰の家族の皆さん！先週一週間も一週間も主の平安の中でキリストとともに歩めましたか。愛する教会家族のみなさん！日中の気温の変化が激しいですね。まだまだ寒暖差大が激しく、花粉の飛散も多かった一週間みんなお変わりないでしょうか。体調崩さないようにお気をつけて下さい。先週木曜日に韓国でリンゴなど農産物が有名な美しい田舎の町「居昌(ゴチャン)」にある「ゴゼ教会」から5人(長老1人、女執事4人)が無事来られ、早速翌日金曜日から土曜日まで3回(午前10時半・夜7時・土午後4時)韓国料理教室の奉仕をして下さいました。大人から子供まで、教会家族も含め、牧場のVIPやまったくキリスト教会が初めての方々を含め、約40人ぐらいが参加されました。今回チームと一緒に協力して下さった教会家族の方々にも本当に感謝します。料理自体は「韓国式ののり巻きとチャプチェ」という割とシンプルなメニューでしたが、やはり今日本の未信者の方々の中では韓国料理などの関心が結構高いなと実感しました。料理教室の後、ゴゼ教会チームが来られた目的、ただのり巻きを作る教室だけではなく、神の愛を、イエスキリストの御救いを伝える為であることと福音の内容も正直に分かち合うことが出来感謝でした。日本の人々を愛し、尊い一人のたましいの救いの為に惜しまず仕えて下さったゴゼ教会チームに感謝し、一緒に協力して下さった教会家族にも感謝致します！

## ＜ 本文の背景 ＞

本日聖書本文、マルコの福音書2章によると、当時不治(ふじ)の病と呼ばれた一人の中風患者を助けるために4人の人がつかがれてイエス様のみもとに連れて来た出来事の内容です。イエス様の当時、ユダヤ人たちは、病にかかっていることは神に罪を犯し罰せられたというような認識でした。特にこの中風患者の名前も、いつから患ったのか詳しく聖書に記されていないので分かりませんが、当時、不治の病の中風の病(脳内の出血や脳に血管が詰まったりして流れず体の一部分かが麻痺される病気)によって、一部ではなく、ほぼ全身体の麻痺によって、起きることすらできず、ずっと横になっていた状態だった一人を紹介しています。

この中風患者と4人は実際家族関係なのか(でも家族関係だったなら、彼の親、兄弟だと一言記されたはずですが、書かれてないので、もしかしたら家族ではないようです)、同じ町で子どもごろから幼馴染(おさななじみ)の関係だったのかよく分かりませんが、この4人の人たちの彼らの切なる願いはただ一つ！中風の病によって一生涯起き上らず、ずっと横になって苦しんで来ている、この愛する友の病の癒しと回復を切に望んでいました。

今まで誰一人助けられなかったこの人に、イエス様なら、最後の希望として受け止めていたのでしょうか。必ず癒して下さる事が絶対できるのだと信じて、動けない一人の友のために、4人が寝かせたままの床(とこ)に乗せてイエス様のところに運んで来たわけです。

ところが今日の**本文4節**を見ると、「彼らは群衆のためにイエスに近づくことができなかったので、」

まず、彼らがイエスキリストに近づくのにふさいでいたのは、思わぬ大勢の群衆の多くの人たちでした。

すぐイエス様に出会い、大きな御業が起こされると期待し、思っていたのに、まず思わぬ彼らの前に大きな障害物(妨げるもの)が表わされています。もう少し近づくと、目の前にイエス様がおられるのに、多くの人々のため、近づけなくなります！きっと群衆たちの視線も冷たかったはずでしょう。‘何で神に罰せられたやつをここまで連れて来たか！もう面倒臭いな～、大変迷惑をかけてるんだな～もう失礼じゃないのかよ’彼らは無視され、一切群衆は道を広げてくれません！

しかし、4人の人たちは正直自分のことでもないので、人々から侮辱を受けて、どう言われても、諦めたり、やめたりしませんでした！それで、4人の友たちが考えたのは、イエス様が見える高いところの屋上を考え出しました。しかし、上がると、また屋上には屋根でふさがれています。

イエスキリストに近づく為に！彼らの前には多くの群衆が、また、屋根がありました。最後まで4人の人々はこの苦しんでいる愛する大切なこの一人のため、諦めないで、またその屋根までもはがし天井に穴を開けて、イエス様のところにおろしま

す。屋根をはがすと、また下のイエス様がおられるところまで下すためには、屋根から落ちるかも知れない高さの怖さ、また下から詰めて立っている多くの人々から、さらなる冷たい視線というものに直面しても、ひたすらこの苦しんでいた愛する一人の中風患者の友のために、人々の冷たい視線に気にせず、また4人の友達はひもの代わりに、自分の服まで脱いだのでしょうか、何とか長いひもを手にいれつないで、結ばせ、結局中風の人が寝ている寝床をつり降ろし、ついにイエス様の御前にまで下すことが出来たのです！

愛する信仰の家族のみなさん！ イエスキリストの御前に近づくのに、このように決して簡単でも、たやすくありませんでした！ 群衆という多くの人々や屋根という物や、落ちるかも知れない高さの怖さとさらなる人々の冷たい視線などのいろいろな障害物が目の前にあらわれても、最後まであきらめず、忍んで、我慢してついに乗り切ってイエスキリストに近づくことが出来たのは、ただ一つ！ 他の人々が中風の患者だと無視しても、この4人の人たちにとっては、苦しんでいるこの人がだれよりも大切に愛する人だったので、ひたすら一人の中風患者の友のために、彼らは人生の最後のチャンスかのように、ひたすら、イエスキリストの前までこの中風の人を担がれていこうとしたわけです。

ついに、イエスキリストの御前に出て、望みの通り、求めた通りに、癒されただけではなく、その人の罪をも赦され神の魂へのいやしと回復の恵みにあずかることが出来ました！

様々な障害物を乗り切って、ついにイエスキリストの御前に導く事ができ、結局イエス・キリストによって、人が解決出来なかったその中風病人の病をいやされ、彼の心の奥にあったすべての罪の問題までも解決され、赦される神の祝福を頂きます。旧約聖書箴言8章17節に、「わたしを愛する者を、わたしは愛する。わたしを熱心に捜す者は、わたしを見出す。」

<人生の難関や問題を乗り越えさせ、神の御業を体験するためには>

#### ①愛の動機による信仰

今日の本文を見ると、すでにイエス様の周りには、数えきれないほど、多くの群衆が集まっていました。すでにイエスキリストを信じた人々も、これから信じようとした人たちもいたと思いますが、そのほとんどの群衆は、ほとんど、自分たちがどうすれば、もっと祝福されるか、自分たちがどうするば、もっとイエス様の素晴らしい御業を直接体験できるか、イエス様かから何かをもらえるのか、自己中心的にしか思っていなかった人々ばかりのように感じます。なぜなら、その群衆の中だれひとり、この寝床に運ばれて来る中風患者に対して、哀れみをもってその患者を運んでいる四人に対しての配慮も、助けようとする人も見えません。みんな沈黙し、黙っています！いやもしかしてその病気が移るかも知れないかのように中に入れようとしていない冷たさまで感じられます。そして、他の人への一切関心がなく、ただ、自分のことに夢中になっている様子ではありませんか。むしろ、まったく助けが必要な人々が目の前に現れていても、透明人間扱いをしたり、面倒くさがる存在、邪魔する存在のような冷たい雰囲気まで感じられます。

ところが、今日のこの4人たちは群衆と違いました！彼らは自分の祝福、自分の問題のことではなく、今自分たちの助けがなければならない、この中風の病人の為に、イエス様への信仰を持ってイエス様に運んで行こうとしていました。

今日4人の友たちが大勢の群衆がまったくゆずれないため、まったくイエス様のところに近づけ状態だったのにもかかわらず、あきらめず、何とか屋上まで中風病人をかつがれて上がって行きました！それでもイエス様が見えなかったので、自分のことだったなら、ここまでもしなかったかも知れません。大変失礼で、迷惑で、家の中イエス様に集まっていた人々からさらなる色々文句を言われても屋根をはがし、穴まであけます。それでも高さがあったので、つりおろすひもなんか準備しなかったはずですから、4人は自分の服まで脱ぎながらも、中風患者をイエスキリストのところまで下ろしました！

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！なぜ4人の人たちは自分のことでもないのに、そこまで無理をしながら、犠牲を払いながらして理由はどこにあったと思いますか。

この苦しんでいる中風の病人のためだからではないでしょうか。それは4人の友たちには、愛を込めた信仰がありました！苦しんでいる愛する一人の大切な友のため！自分のメンツがまるつぶれになっても、周りからどう見られても、どんな犠牲を

払うにしても、中風の病にかかり、苦しんでいたその友を心から愛し、大切に思い、哀れみ深く信仰を持ったため、どんな妨げや邪魔物があっても、どんな壁があっても忍耐しながらすべてを貫き、乗り越えて結局イエス様の御前に連れて来る事が出来たと信じます。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！愛は死のように強いのだ(雅歌8:6節)と聖書に書かれています。神様が一番喜ばれる信仰、一番尊ばれる信仰は愛の動機で行なう信仰、愛で仕える信仰(伝道の目的のためじゃなく、愛する人のため、愛の動機だったのです)だと信じます！

ガラテヤ人への手紙5章6節によると、「キリスト・イエスにあって大事なものは、割礼を受ける受けないではなく、愛によって働く信仰なのです。」だと書かれています。

第一ペテロの手紙3章8節、「最後に言います。みな、一つ思いになり、同情し合い、兄弟愛を示し、心の優しいとなり、謙虚でありなさい。」

真の信仰には愛がかならず伴います！愛のない信仰は正しい信仰ではないのです。なぜなら、神は愛なるお方だからです。我らが神の愛によって、イエスキリストの十字架の上で最高の愛を捧げて下さったゆえに、我らが信じ、救われたものだからです！それはすでに神の御子イエスキリストご自身が我ら一人一人をもっとも愛されたゆえに、救う為に十字架でご自身の命までも惜しまずに全て与えながら、全ての人々を愛された模範を見せてくださったので、その十字架のイエスキリストを正しく信じる人々は当然イエス様のようにみんな愛による信仰に持つようになるはずです。キリストの十字架の愛によってだれでも信仰による救いの道が開かれたのです！

真の愛は苦しみ、悩んでいる、助けが必要な人を見逃しません！愛は自分より、他人の必要に関心を持って惜しまずに助けようとします。愛は犠牲を伴います。愛は忍耐させるようにします。愛は一つでまとまるようにします。愛は信じるように導きます。愛は絶望の中で希望をもたらし、見出します。愛の信仰が神の奇跡を起こします！

今日この4人の友たちに愛の信仰がなかったならば、大勢の群衆を見たときに自分の事じゃないので、もうそこであきらめたかも知れません。この4人に愛の信仰がなかったならば、後で屋根をはがし、穴を開けた事で自分たちが弁償し、払うべき代価と責任を計算してもう冒険(ぼうけん)はしなかったはずでしょう。しかし、真の信仰には、必ず神の深い哀れみと愛を込められています。信仰と愛が一つとなったら、今日の本文のように主がその信仰を見て、喜ばれ、神の愛の御業を体験することが出来ると信じます。

我々クリスチャンプレイズチャーチの家族のみなさんも愛による、愛が伴う信仰者になりますように心からお祈り申し上げます。

ぜひ各家の教会の牧場が4人の友だちのように、自分の事じゃなくても、愛の信仰を持って自分の事、自分の家族のように惜しまず助け合い、仕え合う事が体験出来る愛の信仰家族共同体となりますようにお祈り申し上げます。

みなさんにはみなさんが大変な時に、苦しい時に、助けが必要な時、今日の本文の4人の信仰の友のようにどんな自分が犠牲を払っても自分のことかのように助けてくれる、支えてくれる愛の存在がいるでしょうか。

みなさんの牧場の牧者がそのような存在です。牧場の家族がそのような愛の信仰を持ってみなさんを支えてくれる神の家族、信仰の仲間たちではないでしょうか。一人では倒れやすいですが、愛と信仰を持った信仰の友がともに支え合うと大変な時、絶望しません。完全に倒れません。実は23年度もその愛による信仰と支えと祈りによって守られて来たのではないのでしょうか。ですから、信仰生活は一人で決してできません。自分一人で信仰を守り抜けるなら、イエスキリストがキリストの教会を立てて下さる意味がないと信じます。みなさんの牧場がぜひそのような関係の牧場となりますように、心からお祈り申し上げます！是非まだ牧場に定義的に参加されていない方は是非今週から、今月から一つの牧場に属されて、ともに愛と信仰を持って仕え合い、支え合い、助け合う事が出来ます様に是非お願い申し上げます。

## ②イエスキリストへの諦めない信仰の力

ほとんどの人たちは突然あらわれる難関や障害物にぶつかると、すぐ退(しりぞ)かれるか、続く人生の難関に直面すると、あきらめようとする傾向があります。挫折してしまいます。その場でぺたりとすわりこんでしまいかちです。もうその場でずっと止まってしまって、前進していくことに自信感を失ってしまいます。

ところが、今日の聖書本文に出ている4人の人たちはちょっと違いました！

みなさん！ 今日彼らにそのような難関を乗り越えて、克服して、ついにイエスキリストと会うことが出来たのには、その力はいったいどこから来たのでしょうか。それは彼らの中にあつた**切実な信仰の力**にあつたと信じます。

愛するクリスチャンプレイズチャーチ兄弟、姉妹信仰の家族のみなさん！

**だから、事実我々に一番恐ろしい障害物は私たちの外側にあるのではなく、我らの内側にあるではありませんか。**

世界の中で一番高くて険(けわ)しい山として有名なエベレスト山をご存知でしょう。そのエベレストに世界初めてその山に登って征服したエドモンド・ヒラリー(Sir Edmund Percival Hillary)という人がこう言ったそうです。

**“我々が征服したのは山ではなく、自分自身でした。”**

もう絶対不可能で、できないと考え込んだ自分の否定的な考え方、疑い、不安、恐れなどが、**本当の自分たちの一番難しい難関であり、乗り越えにくい高い壁であり、障害物だったのではないのでしょうか。**しかし、4人の人や中風の患者の人にも、最後まであきらめず、色々な難関を乗り越えさせたのは、**彼らにあつた切実だったその信仰の力**であつた事がわかります。

本文4節に、「**彼らは群衆のためにイエスに近づくことができなかつたので、イエスがおられるあたりの屋根をはがし、穴を開けて、中風の人が寝ている寝床をつり降ろした。**」、それに、5節には「**イエスは彼らの信仰を見て**」と書かれ、**イエス様は彼らがいろいろなの目の前の難関や問題があつてもあきらめず、乗り越えて、イエスキリストの御前に来られたのは、彼らに「信仰」があつたからだ**と評価してくださいました。

**自分たちには到底無理で、どうしようも出来ない、自身の力では解決が解決できない、悩み、痛み、問題を、イエスキリストに持って行けば、その方が必ず、癒し、回復、救い出して下されるという絶対の信仰の力が、全て彼らの目の前にあらわれた難関を切り抜けるように、乗り越えるように、最後まであきらめないようにさせる力となつたわけでありませう！**

愛する信仰の家族のみなさん！ 人生において予想もしなかつたいろいろな難関や問題があらわれる時があるでしょう。

しかし、それに圧倒されず、障害物から避けないで、逃げないで、退かないで、あきらめないでください。

**その時こそ、イエス様に持って行けるチャンスであり、神の力を体験機会となること忘れないでください。**

本日礼拝に集っていらつしやるみなさんも改めてイエスキリストへの信仰をしっかりと保ち、握りしめて、信仰を立たせ、信仰によって進み行きませんか。今日もその信仰を持って神の御前で来られたみなさん！

**障害物で、難関でこれからの先の道がみえない！ どうすれば良いか分からない。自分にはこの問題を解決する力がないと、その時こそ、必ずイエスキリストにこの問題を持って行けば、必ず願ひて、助け、解決して下さる信仰の力が我らを支え、解決まで導いて下さると信じます！ みなさんも信じますか！ アーメン！！ そう信じましょう。**

**ですから、実は外の壁や他の人々の問題ではなく、自分の中にある絶望、不安や恐れ、わずらいの為、戸惑つてしまつている、自分の信仰の弱さが問題ではないのでしょうか。**

今日イエス様は中風病人を連れて来た4人の友たちを見ながらほかのことより彼らの心の信仰を見て誉めてくださった事を覚えましょう。本文5節に「**イエスは彼らの信仰を見て**」

今**イエス様の関心**は彼らの過去でどうであり、ほかのところではなく、**今彼らが持っている、あらわしている彼らの信仰**でした。今日**神様が我々に注目し、探している事は何だ**と思ひますか。そうです。**間違いなく信仰です！**

新約聖書へブル人への手紙11章16節にはこう書かれています。

「**信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神がご自分を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。**」

**それでは、もう一方踏み入れて、4人の友だちはどのような信仰をもつていたので、イエスキリストに褒められ、認められた**

のでしょうか。

### ③諦めず、心を合わせ、ともに協力する信仰

今日の本文3節を読んでみましょう。

「人々が一人の中風の人を、みもとに連れて来た。彼は四人の人に担がれていた。」

4人が一つとなって心や力をあわせて、中風患者をイエスキリストに連れて来られたのです。

中風の人本人の一人の力では無理でした。今自身の身を支える力すらない状態でした。彼は自分一人の力ではできないこと、たれからの助け、協力が必要であることを素直に認めていたでしょう。

それに、4人の友が共に力を合わせてくれます。周りの多くの人々の冷たい視線も、環境的な難関があっても諦めず、気にせず、それを貫き、とにかくひたすらイエス様の御前まで進むことが出来ました。聖書の多くの知識がなくても、イエスキリストがどんなお方なのか詳しく知らず、信仰が深くなくても、人にもできないことが、イエスキリストの御前に持って行って、助けを、癒しを求めば、必ず、願みて下さって、この中風の友を治して、回復させて下さるとわずかな信仰だとしても、それで共に協力し、集めた信仰が、ついに大きな信仰の力を引き起し、素晴らしい神の御業を見ることが出来ました。

一人で神様の偉大な御業をまっとうすることは、なかなか多くの時間がかかり、続けられるのがなかなか難しい面があります。しかし、神様と共に神様の御心が自分の心となるように、我らは信仰によって心をつにし、ともにする必要があります。教会の存在の目的はそれにあるのではありませんか。我らの中でもお互いに一つの信仰によって、心と力を合わせ一つにするこそ、支えられ、信仰を保たれ、さらなる神の偉大な事が起こされるのをともに見ることが出来るのを今日の聖書は我らによく教えて下さっています。

新約聖書使徒の働き1章14～15節までこう書かれています。

「14彼らはみな、女たちとイエスの母マリア、およびイエスの兄弟たちとともに、いつも心をつにして、祈っていた。

15そのころ、百二十人ほどの人々が一つになって集まっていたが、ペテロはこれらの兄弟たちの中に立って、こう言った。「みなさん！一人でもイエスキリストを信じ、一人でも祈れますが、人生の様々な難関や障害物が現れ、ぶつかるたびに、悩み、弱まり、戸惑う時に、自分一人の力ですべて乗り切れないので、ともに支え合い、祈り合い、助け合う信仰の友が必要であるわけです。実に、今まで自分一人のすべての力で、ここまで来られたとだれが言えるでしょうか。ここまで、実に我らはすでに多くの人々からの祈りを、助けを、支えがあってここまで歩んで来ています。

人の弱さを知っておられる神は、そのために、この地上にイエスキリストを通して、ご自身の血潮によって、神の家族のような信仰の共同体なるキリストの教会を建てて下さったのです。

一番強力な祈りは、共に信仰によって、心を会わせて、共に祈る時であることを使徒の働きの初代教会の姿はよく教えて下さっています。イエス様は、新約聖書マタイの福音書18章19－20節を通してこう言われました。

「まことに、もう一度、あなたがたに言います。あなたがたのうちの二人が、どんなことでも地上で心をつにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。ふたりか三人がわたしの名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです。」

伝道者の書(Ecclesiastes)4章12節 「ひとりなら、打ち負かされても、ふたりなら立ち向かえる。三つ撚(よ)りの糸は簡単には切れない。」

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！今週も、今月も、今年も、これからも引き続き家庭で、牧場で、教会で、来られる宣教チームとも信仰によって心を合わせ、主にあって一つになってともに支え合い、ともに協力し続けましょう。その時、さらなる神の救いの尊い御業が成しとけられる為に、また私たちがさらに豊かに用いられると信じます。

本当に不思議ですが、動物の世界でも、馬一頭は2トンの荷物しか運べないらしいですが、馬2頭が共に荷物を引くと23トンの重さまで運べると言われています。これからも主にあって、我々みんなが信仰を持って心を合わせて、共に力を合わせ

て協力して行けば、これからも様々なあらわれる難関や障害物であれ、支えられ、それを貫き、乗り越えて、神様のさらなる祝福も経験できるようになると信じ、切にお祈り申し上げます。

様々な難関や障害物を克服し、乗り越えて行く為には心と力を合わせた信仰が必要でした。そして愛を込めた信仰が必要でした。**しかし、実際に今日の難関を乗り越え、克服するためには当然のようですが、最後まで諦めないで続けて進み行う信仰の姿でした！** あきらめないで4人の人たちは続けて何かをしようと動いています！ 今日4人の友たちは動き始め続いています。群衆のためこれ以上進まないと思ったら、屋上に上がりました！ それでもイエスキリストが見れないし、遠かったので近づくために、屋根をはがし、穴をあけるまでにします！ それでももっとイエス様の御前に近づけるように、中風患者を寝かせたままその寝床(ねどこ)をつり下ろせるように、服をまで脱いでつなぎました。  
**イエス様の御前にもって行くまで、答えられるまで、あきらめず、粘り強く行い続けます！！**

彼らはイエス様に誉められました！ どうしてですか。屋根をはがすほど熱心だったからからでしょうか。そうではありません。イエス様はたくさんの群衆たちの中でも彼らの**信仰の姿と行動、動き**をずっと見て来たと思います。  
**多くの群衆に囲まれていたイエスキリストがずっと彼らに無関心だったのではありません。実は、ずっとほかのところに移らず、そこで彼らが来るまで、待てておられたのです！** イエス様が彼らの信仰を見て賞賛したのは彼らがいくら難関があるにしても、**信仰をもって最後まであきらめなく、最後までイエス様に対する信仰の行動を見せたからでした！**  
**本文2章5節に“イエスは彼らの信仰を見て”**

我々は信仰を抽象的に考えている傾向があります。もちろん、信仰はまず、心の扉を開き、受け入れることなので見えませんが、しかし、その信仰を自分の口(ぐち)を通して信仰を告白します。そして行いによって自分自身の信仰を表わします。この行動で伴われてない信仰はもしかしたら、本当の信仰じゃないかも知れません。**行いが伴わない信仰は聖書では死んだ信仰だと教えて下さっている**ので、まったく、正しい変化も、成長も成熟もするのが出来ないのです。  
**ヤコブの手紙2章17節では、「信仰も、もし行ないがなかったなら、それだけでは、死んだものです。」**  
アプリカの父だと呼ばれた**リビンston**宣教師の生涯信仰のスローガンはこの言葉だったそうです。  
**“私は神様が私に下さったこの目的を達成するまでは、決して中断しないことを決心しました！”**

愛する皆さん！ 結局人の人生において一番大事なのは神様の関係の中で自身がどんな信仰の姿勢をもっているかによるものではありませんか。信仰の態度はすべての物事を肯定的に反応するように導きます。**今日4人の友たちの愛に基づいたあきらめず続けられた信仰の行動によって、イエス様は喜んで彼らの友の病を癒してくださいました。そして彼もすべての罪さえも赦していただきました。** 中風病人は長い歳月が辛い日々でしたが、イエスキリストと出会ってからは、かえて大きな神の奇蹟と祝福を経験した者になりました。もちろんよい仲間がいましたが、**彼の一番祝福は彼の病を通してイエスキリストに出会って救われたという事です。** 愛するみなさん！ 今日皆さんにはどんな問題の難関、壁、問題の前におかれていますか。決して信仰の中で絶望せず、自身の人生が不幸だと言わないでください。時々自分が持っている難関のため自分の夢が実現されるのに時間はもうちょっとかかるかも知れませんが、その夢を成就するのに信仰の者に決して不可能はないことを忘れないようにお願いします。

みなさん！ **信仰はひたすら、人や環境ではなく、神を、イエスキリストを見上げさせ、フォーカスをあわせませます。そして、人生のどんな難関があっても、忍ばせ、それを乗り越えさせる神の力を体験するように導きます。新しい機会と希望を見させます。** また始まる今週、今月も皆さんの壁の向こう側に立ておられるイエスキリストを見上げましょう。

前よりもっと自分じゃなく、愛して大切な一人のために、愛と信仰によって主に導いたお互いが4人の信仰の友のようになりますように用いられますようにお祈り申し上げます。もう一度愛の動機と信仰によって、イエスキリストと出会い、癒され、回復され、救いの恵みを体験できますように！ 神の素晴らしい恵みの奇蹟を御業を体験できる我らの愛と信仰の家庭、愛と信仰の牧場、愛と信仰に満ち溢れる我らのクリスチャンプレイズチャーチの全信仰の家族たちとなりますように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。アーメン！